

はじめに

茅ヶ崎市は、南部に広がる海浜と北部に広がる丘陵の緑、そして四季を通じて温暖な気候に恵まれた美しく住みやすいまちです。また、東京や横浜といった大都市への交通の利便性も高いことから、近年、急速な発展を遂げ、今では人口23万5千人を有する特例市となっています。その一方で、都市化の進行に伴い、市内の樹林地や農地は減少を続け、人と自然とのつながりや、それによって守られてきた里地里山の環境も大きく変貌してきました。

このような状況を踏まえ、本市では、平成10年(1998年)の「茅ヶ崎市環境基本計画」の策定以降、さまざまな環境政策を進めて参りましたが、貴重な自然環境の保全をはじめ、計画に掲げた施策を進めていくための体制・仕組みづくりといった点においては、依然多くの課題が残っています。また、平成22年(2010年)には、我が国において生物多様性条約第10回締約国会議が開催されるなど、本市をとりまく社会的な環境にも変化が生じています。

今回策定した「茅ヶ崎市環境基本計画(2011年版)」では、計画の実効性を高め、本市の環境の保全に確実につなげていくことに主眼を置き、重点施策の具体化や施策体系の再構築を行うとともに、庁内体制の強化を掲げ、より意欲的な計画としました。また、計画の進行管理において、市民や事業者がより主体的に関与する仕組みを構築し、計画の着実な推進を図っていくこととしました。そのため、本計画の推進にあたっては、市民、事業者、市による協働が不可欠です。皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、計画の草案作成から庁内担当課との意見交換、進行管理方法等の検討まで、積極的な議論を重ねてくださった茅ヶ崎市環境基本計画改定市民会議委員の方々、本市の環境に関する専門的な見地から熱心にご審議いただいた茅ヶ崎市環境審議会委員の方々、また、パブリックコメント等を通じて貴重なご意見をいただきました多くの市民、事業者、市民活動団体の方々に厚く御礼申し上げます。

平成23年(2011年)3月

茅ヶ崎市長 服部 信明

茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）

目 次

第 1 章 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）について

1-1 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）策定の背景	2
1-2 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）策定にあたっての基本的な考え方....	5
1-3 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）の基本的事項.....	7

第 2 章 茅ヶ崎市の環境の現況

2-1 市勢の概要.....	12
2-2 自然環境の現況.....	14
2-3 資源循環の現況.....	18
2-4 環境負荷の現況.....	20
2-5 環境に関する取り組み.....	24

第 3 章 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）が目指すもの

3-1 環境の保全及び創造の基本理念	28
3-2 茅ヶ崎市が目指すべき環境の将来像	29

第 4 章 目指すべき環境の将来像を実現するための施策

4-1 施策の構成.....	34
4-2 目標と指標について	35
4-3 目指すべき環境の将来像を実現するための施策.....	36
テーマ1 特に重要度の高い自然環境の保全	38
テーマ2 市域全体の自然環境の保全・再生の仕組みづくり	55
テーマ3 資源循環型社会の構築.....	63
テーマ4 低炭素社会の構築.....	72
テーマ5 計画を確実に進めていくための人づくり.....	79

第 5 章 計画の確実な推進のために

5-1 計画の推進における各主体の連携の強化.....	90
5-2 庁内における推進体制.....	92
5-3 計画の確実な推進を図るための進行管理の仕組み	93
5-4 市民・事業者によるモニタリングの仕組みづくり	96
5-5 「年次報告書」の作成と市民・事業者の意識啓発.....	98
5-6 財源の確保と活用.....	98
5-7 他自治体や神奈川県、国との連携.....	99

資料編

◇本文中「*」のある用語については、資料編に用語解説を掲載しています。

人は、なぜ生きているのでしょうか。

人は、地球という環境の中で、いったい、どんな存在なのでしょうか。

何十億分の一かの確率で存在している自分の存在に、
奇跡を感じずにいられるのでしょうか。

海は、何を考えているのでしょうか。

空は、何を思っているのでしょうか。

山は、何を感じているのでしょうか。

砂や風は、何をみているのでしょうか。

そして、わたしたちは、何をしているのでしょうか。

そんなさまざまな思いを忘れてしまっているわたしたち。

いったい、いつから、どこに、

これらの思いを忘れてきてしまったのでしょうか。

戦後、茅ヶ崎の姿は大きく変わりました。

人が増え、田や畑は宅地になり、

昔、見られた花や虫が、今では珍しいものとなってしまいました。

残された自然を減らすまいとしても、難しい問題がたくさんあります。

減る一方の農地、すぐには変えられない土地の仕組み、

自然に対する価値観の違い。

でも、このまま何もしなければ、自然は確実に減っていきます。

変わったのは、茅ヶ崎だけではありません。
世界中を情報がかけめぐり、たくさんのモノがあふれ、
あらゆる場面でスピードが加速されています。
人と人とのふれあいは希薄になり、
わたしたちはさまざまなものを置きざりにしてしまったのかもしれませんが。
身近な人や自然に対するいたわり、お互いにゆずりあう優しさ。
地球上の人々や、将来を担う子どもたちを想うことのできる大きな気持ち。

大地の恵みの中で、自然と一体となるとき喜び、安らぎは、
どんなに環境が変わろうと、人が普遍に感ずる思いです。
わたしたちは、この地球との一体感を感じるによって生き、
生かされているのではないのでしょうか。
環境は、わたしたちの存在そのもの。
一人ひとりの思いやりが、環境を変えていくのです。
今、地球が、環境が、世界の人々が、無言のメッセージで、
わたしたちに、この思いやりを求めているのです。

